

2025 年サンクスギビングデー特別集会  
メッセージアウトライン

主 題：

マタイによる福音書で啓示されている  
すべてを含むキリスト

標 語

わたしたちが今日、必要とするのは、  
生ける星としての天のキリストの  
今日の、即時的な、生けるビジョンです。

実際的なインマヌエルは、  
わたしたちの霊の中におられる  
究極的に完成された三一の神の臨在としての実際の霊です。  
彼の臨在は、わたしたちの霊の中で、  
日ごとにわたしたちと共にあるだけでなく、  
瞬間ごとに常にわたしたちと共にあります。

神聖な三一の最も明確な啓示は、  
マタイ第 28 章 19 節にあります。  
「だから、行って、すべての諸国民を弟子とし、  
父と子と聖霊の名の中へと彼らをバプテスマして」。

宇宙には二つの大きな原則があります。  
それは、神の権威とサタンの反逆です。  
神とサタンとの間の唯一の争いは、権威と関係があります。

©2025 Living Stream Ministry

## メッセージ 1

### 生ける星としての天のキリストの今日の、即時的な、生けるビジョン

聖書：マタイ 2:1-12. 民 24:17. 創 1:14-19. ダニエル 12:3.  
啓 1:16, 20. 2:1, 28. 3:1. 22:16. II ペテロ 1:19. 創 22:17. ユダ 12-13 節

- I. イエスがベツレヘムで生まれた後、星観測者たちは東からエルサレムに着いて、言いました、「ユダヤ人の王として生まれた方はどこにおられますか？ わたしたちは彼の星が昇るのを見たので、彼を礼拝しに来ました」（マタイ 2:2）。これは民数記第 24 章 17 節の成就でした。それは、「一つの星がヤコブから出て来て」と言っています。この星はキリストを指しています：
- A. 星観測者たちは、「わたしたちは『一つの』星を見た」とか、「わたしたちは『その』星を見た」と言ったのではなく、「わたしたちは『彼の』星を見た」と言いました。その星は天的なキリストです。
  - B. マタイ第 2 章 2 節で語られている星は、これらの学者に示されました。それはイスラエルの民のだれにも現れませんでした。ユダヤ人は、キリストに関する聖書を持っており、彼がどこで生まれるかを知っていましたが（4-6 節）、星観測者たちは、キリストの星を見ました。
  - C. ユダヤ人は、キリストがどこで生まれるかに関する文字の知識を持っていましたが（ミカ 5:2）、東方からのこれらの学者は、彼についての生けるビジョンを受けました。最終的に、その星は彼らをキリストがいる場所に導きました（マタイ 2:1-12）。
  - D. キリストは真の太陽ですが（マラキ 4:2）、厳密に言って、彼は夜の時代には太陽として現れません。むしろ、彼は星として輝きます（啓 2:28）。星は夜に輝きますが、それは昼が来つつあることを示します（ローマ 13:11-14）。
  - E. キリストは一度目に来たとき、公に星として現れましたが、二度目に来るとき、目を覚まして彼の来臨を待ち望んでいる彼の勝利者たちにとって、明けの明星となります（啓 2:28. 22:16）。他のすべての人たちにとって、キリストは後ほど太陽として現れます（マラキ 4:2. 参照、マタイ 13:43）。
- II. マタイ第 2 章 1 節から 12 節が啓示しているのは、キリストを見いだすことが生ける事柄であって、単なる聖書の教理的な知識の事柄ではないということです：
- A. その星は、聖地の宮から、ユダヤ人の宗教の中心から、祭司、聖書学者、パリサイ人から、すべての宗教的な人々から遠く離れた所に現れました。むしろ、異教の地にキリストからのものを示す星がありました。
  - B. ただ聖書をわたしたちの手に持って、キリストがベツレヘムで生まれることになっていると言っているミカ第 5 章 2 節を読むだけでは、役に立ちません。わたしたちは聖書を持っているかもしれませんが、天の星を見失っているかもしれません。
  - C. 星は、生ける啓示であり、生けるビジョンであって、聖書の古くて死んだ教理的な知識ではなく、ミカ第 5 章 2 節の死んだ知識でもありません。今日わたしたちが必要とするものは、単なる聖書の知識ではなく、天のビジョン、今日の、即時的なビジョン、生けるビジョン、人の観念が決して教えることのできないビジョンです。

- D. わたしたちは聖書の知識を持っていますが、依然として即時的な、今日の、生ける星がわたしたちを、イエスがおられるその道、その家に導くことを必要とします。
- E. 生けるビジョンを受けた後、星観測者たちは人の観念によって誤って導かれて、ユダヤの国の首都であるエルサレム、すなわち、その王が生まれると思われていた所に行きました。彼らが誤って導かれたことによって、多くの幼い男の子たちが殺されました——マタイ 2:16。
- F. 彼らがエルサレムに到着し、ユダヤ人の王がどこで生まれるかに関して訪ねた時、聖書は、「ヘロデ王はこれを聞くと当惑し、エルサレム全体も彼と共に当惑した」と言っています——3 節：
1. 彼らはこの知らせを聞いた時、喜ぶべきでしたが、彼らは当惑しました。これは彼らが、救い主を真に追い求めていなかったからであるに違いありません——参照、箴 4:23。
  2. もし主を信じている人が、内側の感情において愛としての主によって影響を受けていないなら、彼はクリスチャンと呼ばれる価値がありません——Ⅱテモテ 4:8. マルコ 12:30. I コリント 2:9。
  3. 主が来ることを期待している、あるいは携え上げられることを期待しているクリスチャンは、このことを警告として受け取るべきです——Ⅱテモテ 4:8. テトス 2:13. 啓 2:28. 22:20. マタイ 24:40-44. 25:8-13。
- G. 星観測者たちは聖書によって正された後（マタイ 2:4-6）、ベツレヘムに行きました（8-9 節）。すると、星が再び彼らに現れ、キリストがおられる場所に彼らを導きました。「彼らはその星を見た時、大いに喜び歓喜した」（10 節）：
1. 星観測者たちが聖書によって正され、正しい路線に戻された時、その星は彼らに再び現れました。生けるビジョンは常に聖書に伴います。
  2. 祭司は、律法を人々に教える者たちであり（マラキ 2:7）、聖書学者は、聖書を知っている者たちでした（エズラ 7:6）。祭司と聖書学者はいずれも、キリストの誕生に関する知識を持っていましたが（マタイ 2:5-6）、東方からの星観測者たちとは異なり、ビジョンを見ず、キリストを尋ね求める心も持っていませんでした。
  3. わたしたちがどれほど「聖書的」であっても、もし主の臨在を失うなら、わたしたちは完全に間違っています。主を見いだし主に従う新約の道は、彼の隠れた臨在の中に絶えずとどまることです——ヨハネ 5:39-40. イザヤ 45:15. 出 33:11, 14. 参照、Ⅱコリント 5:16。
  4. 聖書の知識を蓄えることは容易ですが、もしわたしたちが生ける導きを持とうとするなら、主との親密な関係の中に生きなければなりません。わたしたちは彼と一でなければなりません——マタイ 2:10-14。
  5. 星観測者たちはキリストを見て、礼拝しました。それから彼らは夢の中で、ヘロデの所に戻ってはならないと神に警告されました。ですから、彼らは「別の道を通って」（12 節）、自分たちの国へと旅立ちました。ひとたびわたしたちはキリストを見たなら、決して同じ道、すなわち、キリストから離れた宗教の道を取らず、常に別の道を取ります。

Ⅲ. キリストに忠信に従う者たちは、輝く生ける星たちであり、彼らは輝く生ける星としてのキリストに従って彼の複製となります——ダニエル 12:3. 参照、創 22:17:

- A. キリストは、神のエコノミーの中心性また普遍性であり、生ける星たちは、キリストの天的で、生きた、今日の、即時的なビジョンに従います——使徒 26:16-18. コロサイ 1:17 後半, 18 後半。
- B. 生ける星たちは、神の民を祝福する者たちです。わたしたちは、神の民のゆえに主を賛美すればするほど、また信仰の中で彼らについて積極的に語れば語るほど、ますます自分自身を神の祝福の下に置きます——民 24:9. 創 12:2-3. 22:17。
- C. 生ける星たちは、聖書の預言者の言葉を、「暗い所に輝くともし火として」、よくよく心にとめており、明けの明星としてのキリストを日ごとに彼らの心に昇らせます。わたしたちが聖書の言葉をよくよく心にとめるなら、彼が実際に明けの明星として出現する前に、彼はわたしたちの心に昇り、今日わたしたちがいる背教の暗やみの中で輝きます——Ⅱペテロ 1:19. ヨハネ 6:63. 啓 2:28. 22:16. Ⅱテモテ 4:8:
1. 明けの明星の原則によれば、クリスチャンは朝早く起きるべきです。なぜなら、早朝は主に会う（神と交わり、賛美し歌い、務めの言葉をもって聖書を祈り読みし、主に祈る）最も良い時間であるからです——雅 7:12. 詩 5:1-3. 57:8-9. 59:16-17. 63:1-8. 90:14. 92:1-2. 108:2-3. 143:8. 出 16:21。
  2. 彼は、彼を愛し目を覚まして彼を待ち望んでいる人たちに対して、ご自身を明けの明星としてひそかに与えます。それは、彼が久しく離れていた後に再臨するとき、彼らが彼の臨在の新鮮さを味わうためです——Ⅰテサロニケ 5:6. 啓 2:28. 3:2-3. 16:15。
- D. 生ける星たちは、七倍に強化された霊を享受し、七倍に強化された霊で満たされています。七倍に強化された霊は彼らを神の建造のために、生き生きとすることを強化し、輝くことを強化します——3:1. 4:5. 5:6。
- E. 生ける星たちは諸召会の使者です。彼らは霊なるキリストを、神の使者として、また神からの新鮮なメッセージとして享受し、経験します。それは、彼らが新鮮な現在のキリストを神の民の中へと分与して、イエスの証しとすることができるためです——1:16, 20. 2:1. マラキ 3:1-3。
- F. 生ける星たちは、「心に大きな決意」と「心に大きな探求」を持っています。彼らは神を愛する者であり、「もろもろの星は……その軌道から」神と共に彼の敵と戦った星のような者であって、「力強く昇る太陽のように」なり、「彼らの父の王国で太陽のように輝く」者となります——士 5:15-16, 20, 31. ダニエル 11:32. マタイ 13:43。
- G. 生ける星たちは、エホバを畏れ、彼のしもべの声を聞き、エホバに信頼する人たちです。それによって彼らは暗やみの中を歩いているとき、光を持ちます——イザヤ 50:10-11. 詩 139:7-12, 23-24:
1. 自分自身のために光を作り、神の光の中ではなく、自分で作った光の中を歩く人たちは、苦しみを受けます——イザヤ 50:11。
  2. このことはわたしたちにとって警告であるべきです。それによってわたしたち

- は、自分自身のために作る光の中を歩くのではなく、神によって与えられた光の中を歩きます。「来たれ、わたしたちはエホバの光の中を歩もう」——2:5。
- H. 生ける星たちは、神の回復とさらに進んだ創造からなる第四日に確立された星によって予表されています。彼らは輝くことによって支配します。輝きがあるところに、命の成長のための支配があります——創 1:14-19：
1. 変貌の山で主イエスが輝いたことは、王国が力の中で到来することでした。この輝いたことは、実は三一の神の支配する臨在です——マタイ 17:1-8. マルコ 9:1-8。
  2. 神の王国は、神の支配、神の統治であって、そのすべての祝福と享受を伴っており、主イエスの輝きです。神の王国は、主イエスがわたしたちの上に輝くことによって拡大することです。
  3. 王国は、主イエスの実際の輝きです。彼がわたしたちの上に輝き、わたしたちが彼の輝きの下にいるときはいつでも、わたしたちは王国の中にいて、わたしたちの内側での神の支配と統治の下にいます。それはわたしたちの命の成長のためです。
- I. 消極的な面で、ある人たちは「さまよう星」です——ユダ 12-13 節：
1. さまよう星の比喩が示しているのは、気まぐれな教師たち、背教者たちが、天的な啓示の不変の真理に確固として定着しておらず、神の星のような人たちの間をさまよい歩いていたということです。
  2. 気まぐれな背教者たちは、今日さまよう星ですが、彼らはやがて暗黒の暗やみに閉じ込められます。それは彼らのために永遠に用意されています。
  3. だれであれ、地方召会が神のエコノミーの目標ではなく、キリストのからだの実際という目標に到達するための手続きであると教えない者は、今の時代の神の務めの必要に符合していません。だれであれキリストのからだの実際のための諸召会のブレンディングからわたしたちを切り離す者は、さまよう星です。真の星たちは、多くの人を義に転向させ、人々をそらすのではなく、正しい道に転向させる人たちです。
  4. 今日、その生ける星と生ける星たちは、わたしたちから遠く離れているのではなく、キリストのからだの実行上の表現である地方召会の中に、地方召会と共にいます（啓 1:11, 20）。すべての地方召会の中には、生ける星たちがいます。わたしたちはただ彼らと接触し、彼らと共にいる必要があります。彼らはわたしたちを、イエスのいる所に導きます。
- J. どうか主がわたしたちをあわれんでくださり、わたしたちが常に正しい道に保たれ、主に会い、主を礼拝し、わたしたちの愛を主にささげますように。どうか主がわたしたちすべてを星観測者のようにしてくださり、生ける星に従って行ってキリストを見いだし、新しく発見して、生ける星たちとして彼の複製となりますように——参照、エペソ 5:8-9. エレミヤ 15:16 前半。

メッセージ 2

医者また花婿としてのキリスト

聖書：マタイ 9:10-13, 15. 啓 19:7-9

**I. マタイによる福音書は、キリストが宗教に相對していること、またキリストに関する事は宗教の外にあることを啓示しています：**

- A. キリストの誕生、キリストを見いだすこと、キリストを推薦すること、キリストに従って行くことなどは、みな宗教の外にありました——マタイ 1:18-23. 2:1-12. 3:1-12. 4:12-22。
- B. 宗教において奇跡的に事を行なおうと考えるどのような事も、悪魔の誘惑です——5-7 節。
- C. 医者また花婿として、キリストは宗教に相對します——9:12, 15。
- D. 主イエスは宗教的な伝統を顧みません。彼は内側の實際を顧みます——15:1-20。

**II. マタイ第 9 章 10 節から 13 節は、わたしたちはキリストを医者として経験し、享受することができることを示しています：**

- A. 王国のために彼に従うようにと人々を召すとき、主イエスは裁き主としてでなく、医者として仕えました。
- B. 裁き主の裁きは義にしたがっていますが、医者のいやしはあわれみと恵みにしたがついています。
- C. キリストは来て医者として仕え、わたしたちをいやし、回復し、生かし、救いました。それは、わたしたちが再構成されて彼の新しい天の市民となるためです。彼は彼らをもって、この腐敗した地上に彼の天的な王国を設立しつつあります。
- D. 「『わたしが望むのはあわれみであって、いけにえではない』とはどういう意味なのか、行って学んでください」——マタイ 9:13：
  - 1. 主イエスはわたしたちの靈の病、罪の病をいやします。
  - 2. 罪と死の間に、各種の病、患い、弱さがあります。
  - 3. 主イエスはわたしたちの罪を赦し、またすべての面でわたしたちをいやします。
  - 4. 罪人として、わたしたちは完全に病んでいます。なぜなら、わたしたちは肉体的に、靈的に、道徳的に、精神的に、病んでいるからです。しかし、赦す方また医者であるイエスは、わたしたちのすべての病をいやすことができます。
  - 5. わたしたちの医者として、主がわたしたちをいやすのは、おもにわたしたちの靈において、また魂においてであって、おもにわたしたちの体においてではありません。
  - 6. 主はわたしたちの体においてわたしたちをいやすかもしれませんし、いやさないかもしれませんが、常にわたしたちの靈と魂のあらゆる部分において、わたしたちをいやす準備ができています。
  - 7. わたしたちの医者である主のいやしは、おもに肉体的なものではなく靈的なものです。彼は、わたしたちの靈的な病をいやす方です。
- E. パウロの後期の務めの中の経験は、信者をいやす医者としてのキリストに対する正しい評価を持つことを助けます：

1. II テモテ第 4 章 20 節後半は言います、「トロピモは病気なので、ミレットに残してきました」。
2. 使徒パウロは、そのような親密な者を病気のまま残し、彼のためにいやしの祈りをしませんでした。
3. パウロはまたテモテの胃の病気をいやすために、いやしの賜物を活用しませんでした（使徒 19:11-12）。むしろ、パウロは天然の方法を用いていやされるように指示しました（I テモテ 5:23）。
4. パウロはテモテに少しぶどう酒を飲むように勧め、トロピモはミレットに残してきました。
5. パウロは実に人間的な方法で彼の同労者たちを顧みました。
6. パウロがこういった方法で彼らを顧みた理由は、苦難の時に、パウロと彼の同労者たちは内なる命の訓練の下にいたからであって、外側の賜物の力の下にいたのではなかったからです。
7. 前者は、命における恵みから出るものです。後者は、力の賜物、奇跡的な力から出るものです。
8. パウロの経験は、今日のキリストのいやしがほとんど霊と魂のためであることを見るのに役立つはずです。
9. もしわたしたちがこのビジョンを見るなら、わたしたちはキリストに信頼し、彼を医者として経験するでしょう。

F. わたしたちの医者として、キリストはいやす権威を持っています：

1. 彼のいやしは単に力の事柄ではなく、権威の事柄です。
2. 彼はわたしたちをいやすのに、直接わたしたちに触れる必要はありません。
3. 彼はただ一言語る必要があるだけです。そうすれば、彼の権威は彼の言葉を伴ってきて、わたしたちをいやします——マタイ 8:8。
4. わたしたちの医者は彼の権威をもって、わたしたちをいやします。

III. マタイによる福音書と啓示録では、キリストは花婿として啓示されています——マタイ 9:15. 啓 19:7-9：

A. マタイ第 25 章 1 節は、花婿としての主イエスについてのさらなる言葉です：

1. この節は、主が花婿として、最も喜ばしい引き寄せる方として戻って来ることを啓示しています。
2. 聖書は、キリストが具体化された神であって、花嫁を持つことを啓示しています。
3. ですから、キリストの身分は花婿の身分です。
4. 花婿として、彼はわたしたちの享受のための喜ばしい方です。
5. わたしたちは、主を命の回復のための医者としてだけでなく、彼が共にいるという生ける享受のための花婿として評価すべきです。

B. 啓示録第 19 章 7 節から 9 節は、花婿としてのキリストを明らかにしています：

1. これらの節は、主イエスが花婿としての小羊であることを啓示しています。
2. キリストは小羊と花婿の両方として提示されています。
3. ヨハネによる福音書において、キリストは罪を取り除くために来た小羊と、花嫁

を持つために来た花婿の両方として啓示されています。

4. 小羊は贖いのためであり、花婿は婚姻のためです。
5. 贖いは神の小羊としてのキリストによって達成されました。そして婚姻は、キリストが来たるべき花婿として彼の花嫁をめとる時に起こります。
6. キリストは花婿として婚姻を持たなければなりません。わたしたちの地位は花嫁の地位であり、来たるべきキリストの地位は花婿の地位です。
7. わたしたちは地上で花嫁となって彼に会うための準備をしており、そして彼は第三の天の御座で花婿としてわたしたちに会いに来るための準備をしています。
8. 彼は花婿として来つつあり、わたしたちは花嫁として行きつつあります——マタイ 25:1。

©2025 *Living Stream Ministry*



メッセージ 3

イエス（神によって与えられた王・救い主の御名）と  
インマヌエル（人によって呼ばれた王・救い主の御名）

聖書：マタイ 1:21, 23. 18:20. 28:20

I. 「彼女は男の子を産みます。あなたは彼の名をイエスと呼びなさい。彼は自分の民を、彼らの罪から救うからです」——マタイ 1:21：

- A. 「イエス」は、ヘブル語の名前「ヨシュア」と等しいギリシャ語です。それは「エホバ救い主」、あるいは「エホバの救い」を意味します。イエスは、わたしたちの救い主となられるエホバ、またわたしたちの救いとなられるエホバです——ローマ 10:12-13. 5:10. 参照、ピリピ 1:19。
- B. イエスという名には、エホバという名が含まれています。エホバは、「わたしは『わたしはある』である」を意味し、それはエホバが自ら存在し、永遠に存在する永遠の方、過去おり、現在おり、将来、永遠にわたっておられる方であることを示します——出 3:14. 啓 1:4：
1. エホバは唯一「ある」方であり、彼ご自身以外の何にも依り頼まない方です。わたしたちは信仰の霊を活用して、「彼はある」ことを信じ、わたしたちは「ない」ことを信じなければなりません。彼はあらゆることでただひとりの方、唯一の方であり、わたしたちはあらゆることで無です——ヘブル 11:6。
  2. 彼は「わたしはある」として、すべてを含む方、すべての積極的な事物の実際、彼の民が必要とするすべての実際です——ヨハネ 6:35. 8:12. 10:14. 11:25. 14:6。
  3. わたしたち信者は、金額欄が空白の署名入り小切手を持っており、必要なだけそれに書き込むことができるということです。光、命、力、知恵、聖、義など、わたしたちが必要とするものは何であれ、イエスがそれです。わたしたちが必要とするすべてが、イエスという御名の中に見いだされます。
- C. イエスはわたしたちのヨシュア、すなわち、わたしたちを安息の中へともたらす方です。その安息は、わたしたちにとって良き地である彼ご自身です——ヘブル 4:8. マタイ 11:28-29。
- D. 主の御名、すなわち彼のパーソンは、すべてを含む複合の霊です——雅 1:3. 出 30:23-30. ピリピ 1:19。
- E. イエスの御名は、あらゆる名にまさります——ピリピ 2:9-10：
1. イエスの御名は、わたしたちがその中へと信じるためのものです——ヨハネ 1:12。
  2. イエスの御名は、わたしたちがその中へとバプテスマされるためのものです——使徒 8:16. 19:5。
  3. イエスの御名は、わたしたちが救われるためのものです——4:12。
  4. イエスの御名は、わたしたちがいやされるためのものです——3:6. 4:10。
  5. イエスの御名は、わたしたちが洗われ、聖別され、義とされるためのものです——I コリント 6:11。

6. イエスの御名は、わたしたちが呼び求めるためのものです——ローマ 10:13. I コリント 1:2. 使徒 9:14. 創 4:26。
7. その霊は、わたしたちが呼吸する天の空気です。わたしたちは霊を活用して主の御名を呼び求めることによって、その霊を吸い込み、それによってその霊を受けます——ヨハネ 20:22. ガラテヤ 3:2. I テサロニケ 5:17. 哀 3:55-56. 詩歌 210 番。

F. 主の御名を呼び求めることの目的は、以下のとおりです：

1. 救われる——ローマ 10:13。
2. 悩み、困難、悲しみ、苦痛から救い出される——詩 18:6. 118:5. 86:7. 50:15. 81:7. 116:3-4。
3. 主の慈愛、あわれみにあずかる——86:5。
4. 主の救いにあずかる——116:2, 4, 13, 17。
5. その霊を受ける——使徒 2:17, 21。
6. 満足のために霊の水を飲み、霊の食物を食べる——イザヤ 55:1-2, 6。
7. 主の豊富を享受する——ローマ 10:12. I コリント 12:3 後半. 申 4:7. 詩 145:18。
8. 自らを奮い立たせる——イザヤ 64:7。
9. イエスの御名は、わたしたちがその中で祈るためのものです——ヨハネ 14:13-14. 15:16. 16:24。
10. イエスの御名は、わたしたちがその中へと集められるためのものです——マタイ 18:20。
11. イエスの御名は、わたしたちが悪鬼どもを追い出すためのものです——使徒 16:18。
12. イエスの御名は、わたしたちが大胆に語るためのものです——9:27。

G. サタンはイエスの御名を憎んでいます：

1. サタンは人々を利用してイエスの御名を攻撃します——参照、26:9。
2. 宗教家たちはイエスの御名を攻撃し、信者たちがその名によって宣べ伝えたり教えたりすることを禁じました——4:17-18. 5:40。
3. 使徒たちは迫害された時、イエスの御名のために辱められるにふさわしい者とされたことを喜びました——41 節. 15:26。

H. 主イエスがヒラデルヒヤの勝利者たちを称賛したのは、彼らが彼の御名を否まなかったからです——啓 3:8：

1. 回復された召会は、主イエス・キリスト以外のすべての名を捨てて、絶对的に主に属しました。
2. 主以外の名を取るによって召会を命名することは、霊的な淫行です。召会は、キリストに婚約させられた清純な処女として（II コリント 11:2）、自分の夫以外の名を持つべきではありません。

II. 「『見よ、処女が身ごもって男の子を産む。人々は彼の名をインマヌエルと呼ぶ』（インマヌエルは、神われらと共にいますと訳される）」——マタイ 1:23：

A. イエスは神によって与えられた王・救い主の御名でした。インマヌエルは人によって呼ばれた王・救い主の御名でした——23 節。

- B. マタイによる福音書はインマヌエル、すなわち、肉体と成ってわたしたちと共にいます神についての書です——21-23 節。
- C. インマヌエルはすべてを含んでいます——ピリピ 1:19：
1. 彼は、まずわたしたちの救い主であり（ルカ 2:11）、それから、わたしたちの贖い主であり（ヨハネ 1:29. ローマ 3:24）、それから、わたしたちに命を与える方であり（I コリント 15:45 後半）、それから、すべてを含む、内住する霊です（ヨハネ 14:16-20. ローマ 8:9-11）。
  2. 實際上、新約全体の内容は、インマヌエルです（マタイ 1:23. 18:20. 28:20. 啓 21:3）。キリストにあるすべての信者は、キリストの肢体として、この大いなるインマヌエルである団体のキリストの一部分です（I コリント 12:12. コロサイ 3:10-11）。
- D. 実際のインマヌエルは、わたしたちの霊の中におられる究極的に完成された三一の神の臨在としての実際の霊です。彼の臨在は、わたしたちの霊の中で、日ごとにわたしたちと共にあるだけでなく、瞬間ごとに常にわたしたちと共にあります——ヨハネ 1:14. 14:16-20. I コリント 15:45 後半. II テモテ 4:22：
1. 彼は、わたしたちの集まりの中でわたしたちと共にいます——マタイ 18:20。
  2. 彼は日々、わたしたちと共にいます——28:20。
  3. 彼は、わたしたちの霊の中でわたしたちと共にいます——II テモテ 4:22：
    - a. 今日わたしたちの霊は、インマヌエルの地です——イザヤ 8:7-8。
    - b. 神がわたしたちと共におられるので、敵は決してインマヌエルの地を占領することはできません——10 節. 参照、I ヨハネ 5:4. ヨハネ 3:6。
  4. わたしたちは、彼の聖なる御言を教えるために共に集まるとき、三一の神の臨在を享受することができます——マタイ 18:20. 28:20. 詩 119:30. 使徒 6:4。
  5. わたしたちは、三一の神の臨在としてのその霊を通して、恵みと平安を享受します——ガラテヤ 6:18. 使徒 9:31。
  6. その霊が導くことと証しすることは、彼の臨在です——ローマ 8:14, 16。
  7. わたしたちが三一の神の分与を享受するのは、その霊としての彼の臨在を通してです——II コリント 13:14。
- E. インマヌエルとしてのキリストと共に生きるために、わたしたちは彼の神聖な臨在の中にいる必要があります。彼の神聖な臨在は、三一の神の究極的完成である命を与える霊です——ガラテヤ 5:25：
1. キリストと共に生きるために、わたしたちは依然として生きているのですが、それは単独で自分自身によって生きるのではなく、インマヌエルとしてわたしたちの中で、わたしたちと共に生きているキリストによって依然として生きています。三一の神は、わたしたちの外側では、ご自身をわたしたちの存在の中へと分与するという彼の意図を完成することはできません。ですから、彼がわたしたちと共にいることは、内側のことでなければなりません——2:20。
  2. インマヌエルはわたしたちの命またパースンです。わたしたちは彼の器官であって、彼と共に一人のパースンとして生きています。わたしたちの勝利は、インマヌエル、すなわち、イエスの臨在にかかっています。

3. わたしたちは主の臨在を持っているなら、知恵、洞察力、先見性、物事に関する内なる認識を持ちます。主の臨在は、わたしたちにとってすべてです——Ⅱコリント 2:10. 4:6-7. ガラテヤ 5:25. 創 5:22-24. ヘブル 11:5-6。
- F. わたしたちは良き地の実際としてのすべてを含むキリストに入り、所有し、享受しようとするなら、主の臨在によってそうしなければなりません。主はモーセに約束しました、「わたしの臨在があなたと共に行って、わたしはあなたに安息を与える」（出 33:14）。神の臨在は神の道、すなわち「地図」であって、神の民に彼らが歩むべき道を示します：
1. わたしたちは神の建造のためにすべてを含む地としてのキリストを完全に獲得し、所有するために、この原則を保持しなければなりません。その原則とは、神の臨在があらゆる事柄に対する基準であるということです。わたしたちは何をするかにかかわらず、わたしたちが神の臨在を持っているかどうかに注意を払わなければなりません。わたしたちが神の臨在を持っているなら、すべてがありますが、神の臨在を失うなら、すべてを失います——マタイ 1:23. Ⅱテモテ 4:22. ガラテヤ 6:18. 詩 27:4, 8. 51:11。
  2. 主の臨在、主の笑顔が支配する原則です。わたしたちは主の直接の、直の臨在によって守られ、支配され、管理され、導かれることを学ばなければなりません——27:8. 80:3, 7, 17-19。
  3. 円熟した命の、王として支配する面の代表として、ヨセフは主の臨在を享受し、それと共に主の権威、繁栄、祝福を享受しました——創 39:2-5, 21. 使徒 7:9。
  4. モーセは神の心にとっても近い、神の心にしがった人でした。このゆえに、彼は満ち満ちた程度にまで神の臨在を持っていました——出 33:11。
  5. 使徒パウロは、キリストの目において表現された彼のパーソン全体の表示にしたがって、キリストの臨在の中で生き、行動した人でした——Ⅱコリント 2:10。
  6. 「わたしは若いとき、打ち勝ち、勝利を得て、聖となり、霊的になるさまざまな方法を教えられました。しかしながら、これらの方法はどれも役に立ちませんでした。……主の臨在以外に何も役に立ちません。彼がわたしたちと共におられることがすべてです」——ヨシュア記ライフスタディ、第8編。
- G. 新約全体はインマヌエルであり、わたしたちは今やこの大いなるインマヌエルの一部分です。この大いなるインマヌエルは、新天新地の新エルサレムにおいて究極的に完成し、永遠に至ります。新約は、「神われらと共にいます」である神・人をもって開始します。そして、大いなる神・人、新エルサレム、すなわち、「エホバはそこにおられる」をもって終わります——マタイ 1:23. Ⅰコリント 6:17. 使徒 9:4. Ⅰテモテ 3:15-16. 啓 21:3, 22. エゼキエル 48:35。

メッセージ 4

手順を経た三一の神の中心としてのキリスト

聖書：マタイ 28:19. I コリント 15:45. II コリント 3:17. 13:14

I. 神聖な三一の最も明確な啓示は、マタイ第 28 章 19 節にあります。「だから、行って、すべての諸国民を弟子とし、父と子と聖霊の名の中へと彼らをバプテスマして」:

A. 「名の中へと」は、パースンを示します:

1. バプテスマされることは、父と子と聖霊の名（パースン）の中へと、手順を経た三一の神との有機的な結合の中へとバプテスマされることです。
2. マタイ第 28 章 19 節の「の中へと」という言葉が示しているのは、ローマ第 6 章 3 節、ガラテヤ第 3 章 27 節、I コリント第 12 章 13 節にあるような結合です。
3. 人々を三一の神の御名の中へとバプテスマすることは、彼らを彼との霊的で奥義的な結合の中へともたすことです。
4. マタイ第 28 章 19 節において、神聖な三一のための一つの名があります:
  - a. その御名は、神聖な存在の総合計であり、彼のパースンと等しいのです。
  - b. 信者たちを三一の神の御名の中へとバプテスマすることは、彼らを三一の神であるすべての中へと浸し込むことです。

B. 神は三・一です——II コリント 13:14:

1. マタイ第 28 章 19 節で、主は三つのパースン、すなわち父、子、聖霊について語りました。
2. ここで彼が父、子、聖霊の名について語った時、原文では「名」は単数です。
3. このことが意味するのは、父、子、霊は三ですが、名は一であるということです。
4. 三つのパースンに対して一つの名があることは真に奥義的であり、神が三・一であることを啓示しています。
5. この名は、三者、すなわち、父、子、聖霊を含んでいます。
6. 神は唯一無二ですが、三つのパースン、すなわち父、子、霊があります。

II. わたしたちはキリストにある信者として、手順を経た三一の神の中へとバプテスマされました:

- A. マタイ第 28 章 19 節で与えられた命令は、主イエスが復活の中へと入った後、彼によって与えられました。復活は、三一の神の手順の完成でした。
- B. 三一の神は、手順を経過しました。この手順は、肉体と成ることをもって開始し、人の生活と十字架を含み、復活をもって完成しました。
- C. 復活において、三一の神の具体化であるキリストは、命を与える霊と成りました——I コリント 15:45. II コリント 3:17。
- D. この霊は、三一の神の究極的完成であり、信者たちが神聖な三一の中へとバプテスマされるためです。
- E. 三一の神のパースンの中へとバプテスマされることは、手順を経た三一の神の究極的完成である、すべてを含む、究極的に完成された霊の中へとバプテスマされることです:
  1. これは、御父の豊富の中へと、御子の豊富の中へと、その霊の豊富の中へとバプ

テスマされることです。

2. わたしたちは今、バプテスマされた者として、三一の神との有機的な結合の中にいます。こういうわけで、御父が持っているものは何であれ、御子が持っているものは何であれ、その霊が持っているものは何であれ、わたしたちのものとなっています。

F. 三一の神の御名の中へとバプテスマされることは、三一の神との奥義的な結合の中へと入れられること、また神であるすべてをわたしたちの存在の中へと適用することです。

### Ⅲ. キリストは、手順を経た三一の神の中心です——Ⅱコリント 13:14 :

A. 「手順を経た」は、三一の神が経過した極めて重要な段階を指しています :

1. 肉体と成る前、神は手順を経ておらず、神聖な性質を持っていましたが、人の性質を持っていませんでした。しかし、肉体と成ること、人の生活、十字架、復活、昇天を通して、三一の神は手順を経て究極的に完成されました。
2. 啓示録において、三一の神は、手順を経て究極的に完成された三一の神であり、神性、人性、人の生活、すべてを含む死、力強い復活、超越した昇天を持っています——1:4-5。

B. 手順を経て究極的に完成された三一の神はその霊です——22:17 前半, ヨハネ 7:39:

1. その霊は、神の霊の称号のすべての要素の全体、総合計です——マタイ 3:16, 10:20, ルカ 1:35, 4:18, ローマ 8:9, ガラテヤ 4:6。
2. 手順を経て究極的に完成された三一の神の究極的完成として、その霊は神の新約エコノミーの祝福です——3:14。

C. 啓示録の中の三一の神は、建造する神であり、また建造された神です——21:18-19 前半, 21 :

1. 聖書は新エルサレムにおいて究極的に完成します。新エルサレムは、初めにいた神ご自身です——創 1:1, 啓 21:10 :
  - a. 唯一の神は、最終的に拡大され拡張されて、一つの都となり、それは神の永遠の表現となります。
  - b. 神のエコノミーにおいて、神はすでに新エルサレムになっています——10 節。
  - c. 新エルサレムにおいて、三一の神は、彼の選ばれ贖われた人々の中へと造り込まれています——18-19 節前半, 21 節前半。
2. 新エルサレムとなった神は、建造する神であり、また建造された神です——サムエル下 7:12, 14 前半, マタイ 16:18, エペソ 3:17 :
  - a. 手順を経て究極的に完成された三一の神は、源、要素、本質として、ご自身をわたしたちの存在の中へと建造することによって、召会を建造しつつあります——17 節。
  - b. 神は、ご自身をキリストの中でわたしたちの存在の中へと建造し、わたしたちを彼の存在の中へと建造して、彼の願いを成就しつつあります。最終的に、この建造の結果は新エルサレムです——啓 21:2, 10。

D. 啓示録には、神聖な分与のための神聖な三一の究極的な啓示があります——22:1-2, 7:17 前半, 21:6 後半, ヨハネ 4:14 後半 :

1. 神聖な分与とは、神がご自身を、彼の選ばれ贖われた人々の中へと分け与えて、  
彼らの命、命の供給、すべてとすることです——Ⅱ コリント 13:14。
2. 神聖な分与において、御父は源泉であり、御子は泉であり、その霊は流れです。

©2025 *Living Stream Ministry*

メッセージ 5

わたしたちに安息を与える方としてのキリスト

聖書：創 1:26, 31—2:2, マタイ 11:28-30, 出 31:12-17

- I. 「すべて労苦し重荷を負っている者は、わたしに来なさい。そうすれば、わたしはあなたがたに安息を与える。わたしは心の柔和なへりくだった者であるから、わたしのくびきを負い、わたしから学びなさい。そうすれば、あなたがたは魂に安息を見いだす。なぜなら、わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」——マタイ 11:28-30 :
- A. この労苦は、律法の戒めや宗教的規定を守ろうと努力する労苦を指すだけでなく、あらゆる働きにおいて成功しようとして奮闘する労苦も指しています。このように労苦する人はだれでも、常に大きな重荷を負っています。
- B. 主は御父の道を認め、神聖なエコノミーを宣言して御父をほめたたえた後（25-27節）、このような人々が彼に来て安息を得るようにと、主は召しました。
- C. 安息は、律法や宗教の下、あるいはあらゆる働きや責任の下での労苦と重荷から解放されることを指すだけでなく、完全な平安と全き満足をも指しています。
- D. 主のくびきを負うとは、御父のみこころを取ることです。それは、律法や宗教のどんな義務によって規制されたり支配されたりすることでもなく、または何かの働きによって奴隷にされたりすることでもなく、御父のみこころによって拘束されることです。
- E. 主はそのような生活をして、御父のみこころ以外の何も顧慮しませんでした（ヨハネ 4:34, 5:30, 6:38）。主はご自身を完全に御父のみこころに服従させました（マタイ 26:39, 42）。ですから、主はご自身から学ぶようにと、わたしたちに求めています：
1. 信者たちは、主の模範にしたがって、主のくびき（神のみこころ）を負うことによって、また神のエコノミーのために労苦することによって、彼らの霊の中で主を複写します——11:29 前半、I ペテロ 2:21。
  2. 主は、彼の全生涯にわたって、御父に服従し、従順であって、ご自身の服従と従順の命をわたしたちに与えました——ピリピ 2:5-11、ヘブル 5:7-9。
  3. キリストは最初の神・人でした。わたしたちは多くの神・人です。わたしたちは、キリストが神に絶対的に服従したことにおいて、またキリストが神をもって極みまで満足したことにおいて、キリストから学ばなければなりません。
  4. 神は、ご自身の目に喜ばれることを、イエス・キリストを通してわたしたちの中で行なっています。それはわたしたちが、神のみこころを行なうことができるためです（ヘブル 13:20-21）。神は、ご自身の大いなる喜びのために、わたしたちの中で活動して、願わせ働かせています（ピリピ 2:13）。
- F. 柔和、あるいは溫柔であるとは、反対に抵抗しないことを意味し、へりくだるとは、自分を高く見ないことを意味します。主はすべての反対の中で柔和であり、すべての拒絶の中で心がへりくだっていました。
- G. 彼はご自身を御父のみこころに完全に服従させ、ご自身のために何を行なうことも



願わず、ご自身のために何かを獲得しようと期待しませんでした。ですから、状況がどうであっても、彼は心の中に安息を持っていました。彼は御父のみこころをもって完全に満足していました。

- H. 主のくびきを負い、彼から学ぶことによってわたしたちが見いだす安息は、わたしたちの魂のためです。それは内側の安息であり、性質において単なる外面的なものではありません。
  - I. わたしたちが主の模範にしたがって主から学ぶのは、わたしたちの天然の命によってではなく、復活の中のわたしたちの命としての主によってです——エペソ 4:20-21。 I ペテロ 2:21。
  - J. 主のくびきは御父のみこころであり、彼の荷は御父のみこころを遂行する働きです。そのようなくびきは負いやすく、苦痛ではありません。またそのような荷は軽く、重くありません。
  - K. 「(負い) やすい」というギリシャ語は、「用いられるのにふさわしい」を意味します。ですから、良い、親切な、柔和な、溫柔な、容易な、楽しいを示し、過酷な、厳しい、険しい、苦痛の反対です。
  - L. わたしたちは、わたしたちに対する主のくびき（御父のみこころ）を負い、彼から学ぶなら、わたしたちの魂に安息を見いだします。神のエコノミーのくびきはこのようです。神のエコノミーにおけるあらゆる事は重荷ではなく、享受です。
- II. 神の住まいの建造に関する長い記載の後、出エジプト記第 31 章 12 節から 17 節で、安息日を守る戒めが繰り返されています。コロサイ第 2 章 16 節から 17 節によれば、キリストは、安息日の安息の実際です。キリストは、わたしたちの完全さ、安息、平穩、完全な満足です——ヘブル 4:7-9。 イザヤ 30:15 前半：**
- A. 幕屋を建造する働きの命令の後に、安息日に関する言葉が挿入されています。これが示すのは、建造する者たち、働く者たちが主のために働くとき、どのように主と共に安息するかを学ぶよう、主が彼らに告げたということです。
  - B. もしわたしたちが、どのように主のために働くかを知っているだけで、どのように彼と共に安息するかを知らないなら、神聖な原則に反して行動しています：
    - 1. 神が第七日に安息したのは、彼がご自身の働きを終えて満足したからです。神の栄光が現されたのは、人が神のかたちを持ち、神の權威が行使されて、神の敵サタンを征服しようとしていたからです。人が神を表現し、神の敵を対処している限り、神は満足し、安息することができます——創 1:26, 31—2:2。
    - 2. 後ほど、第七日は安息日として記念されました（出 20:8-11）。神の第七日は人の第一日でした。
    - 3. 神は人の享受のために、あらゆるものを備えていました。人は創造された後、神の働きに加わったのではなく、神の安息の中へと入りました。
    - 4. 人が創造されたのは、まず働くためではなく、神で満足し、神と共に安息するためでした（参照、マタイ 11:28-30）。安息日は人のためにあるのであって、人が安息日のために造られたものではありません（マルコ 2:27）。
  - C. 出エジプト記第 31 章 17 節は言います、「六日の間にエホバが天と地を造り、七日目に安息し憩われた」：

1. 安息日は神にとって安息であっただけでなく、憩いでもありました。
  2. 神は彼の創造の働きが完成した後、安息しました。彼は御手のわざを見つめ、天、地、すべての生き物、特に人を見て、「非常に良い！」と言いました——創 1:31。
  3. 神は人のゆえに憩われました。神がご自身のかたちに霊のある人を創造したのは、人が彼と交わりを持つことができるためでした。ですから、人は神の憩いでした——26 節。2:7。参照、ヨハネ 4:31-34。
  4. 神は人類を創造する前、「独身」でした（参照、創 2:18, 22）。神は人が彼を受け入れ、彼を愛し、彼で満たされ、彼を表現して彼の妻となることを願いました（Ⅱコリント 11:2。エペソ 5:25）。神は未来の永遠において、妻、すなわち新エルサレムを持ち、それは小羊の妻と呼ばれます（啓 21:9-10）。
  5. 人は憩わせる飲み物のようであって、神の渴きをいやし、彼を満足させました。神は彼の働きを終えて、安息し始めた時、人を彼の同伴者として持ちました。
  6. 神にとって、第七日は安息と憩いの日でした。しかしながら、神の同伴者である人にとって、安息と憩いの日は第一日でした。人の第一日は享受の日でした。
- D. わたしたちが享受を得る前に、神はわたしたちに働くことを求めません。これは神聖な原則です。わたしたちは彼と共に、また彼に対して満ち満ちた享受を持った後、彼と共に働くことができます：
1. もしわたしたちが、どのように神と共に享受を持つか、どのように神ご自身を享受するか、どのように神で満たされるかを知らないなら、どのように彼と共に働き、彼の神聖な働きの中で彼と一になるかを知りません。人は、神が彼の働きの中で完成したものを享受します。
  2. ペンテコステの日に、弟子たちがその霊で満たされたことは、彼らが主に対する享受で満たされたことを意味します。彼らがその霊で満たされていたので、他の人は、彼らがぶどう酒に酔っていると思いました——使徒 2:4 前半、12-13。
  3. 実は、彼らは天のぶどう酒に対する享受で満たされていたのです。彼らはこの享受で満たされた後はじめて、神との一の中で神と共に働き始めました。ペンテコステは第八週の第一日でした。ですから、わたしたちはペンテコステの日に関して、第一日の原則を見ます。
  4. 神にとっては、働いて安息する事柄です。人にとっては、安息して働く事柄です。
- E. わたしたちは召会を建造するという神の神聖な働き（幕屋を建造する働きで予表される）を行なうとき、わたしたちが神の民であり、神を必要としていることを示すしるしを帯びなければなりません。その時わたしたちは、神のために働くだけでなく、神と一になることによって神と共に働くことができます。神はわたしたちの働く力、また労苦する活力となります：
1. わたしたちは神の民であって、神にわたしたちの享受、力、活力、すべてとさせていただく必要があるというしるしを帯びているべきです。それは、わたしたちが神のために働き、彼を尊び、彼の栄光を現すことができるようになるためです。
  2. 安息日が意味するのは、わたしたちが神のために働く前に、神を享受し、神で満たされる必要があるということです。ペテロは、彼を満たす神、すなわち彼を満

たす霊によって福音を宣べ伝えました。ですから、ペテロは神の同労者であるというしるしを持っており、彼の福音の宣べ伝えは神にとって誉れと栄光でした——14 節。

3. 神の民として、わたしたちが帯びなければならないしるしとは、わたしたちがまず神と共に安息し、神を享受し、神で満たされているということです。それからわたしたちは、わたしたちを満たす方と共に働きます。さらに、わたしたちは神と共に働くだけでなく、神と一である者として働きます。
4. わたしたちは神の民に語るとき、わたしたちの主が、言葉を供給するためのわたしたちの力、活力、すべてであるというしるしを帯びることを、常に求めなければなりません——Ⅱ コリント 13:3. 使徒 6:4.
- F. 安息日を守ることはまた永遠の合意、あるいは永遠の契約であり、わたしたちがまず神を享受し神で満たされることによって、それから神のために、神と共に、神と一の中で働くことによって、神と一であることを、神に保証します——出 31:16:
  1. わたしたちが自分自身で主のために働いて、彼を飲んで食べることによって彼を取り入れ享受することがないのは、厳粛な事柄です——参照、Ⅰ コリント 12:13. ヨハネ 6:57.
  2. ペテロはペンテコステの日に語っていた時、内側でイエスにあずかり、彼を飲んで食べていました。
- G. 安息日はまた聖別の事柄でもあります（出 31:13）。わたしたちは主を享受し、それから彼と共に、彼のために、彼と一になることによって働くとき、自然に聖別され、俗的なすべてのものから神へと分離され、神で浸透されて、肉的で天然的なものはすべて置き換えられます。
- H. 召会生活の中で、わたしたちは多くの事を行なっても、まず主を享受することがなく、また主と一になることによって主に仕えることがないかもしれません。そのような奉仕の結果は霊的な死と、からだの交わりを失うことです（14-15 節）。
- I. 神の住まいに関するあらゆるものは、わたしたちを一つの事柄に導きます。それは主の安息日と、その安息と憩いです。召会生活の中で、わたしたちは幕屋の中におり、幕屋はわたしたちを安息に導き、神の定められた御旨と彼が行なったことに対する享受に導きます！
- J. 幕屋とそのすべての調度品を建造する働き（召会を建造する主の働きを予表する）は、神に対する享受をもって開始し、その期間、継続して神を享受することによって憩いを持つべきです。この事が示すのは、わたしたちが神のために働くのは自分自身の力によってではなく、神を享受することによって、また神と一になることによってであるということです。これがわたしたちの霊の中の内なる安息としてのキリストをもって、安息日の原則を守ることです。

天においても地においても、いっさいの権威を持つ方としてのキリスト

聖書：マタイ 7:29, 21:24, ルカ 5:24, ローマ 9:21-22, ヘブル 13:17

I. わたしたちは「権威」についての定義を持つ必要があります——マタイ 7:29：

- A. 「権威」についての最上の定義は、「命令を発し、決定し、服従を強いる権力または権利であり、しばしば権力の地位あるいは専門知識から生じるもの」です。
- B. 聖書の中で「権威」とは、「権力を行使する道徳上の権利であり、究極的には神から生じる、また神を起源とするもの」です。

II. 神は最高の権威です。彼はすべての権威を持っています——ローマ 9:21-22：

- A. 神の権威は、神ご自身を代表します。神の力は、神の働きだけを代表します——マタイ 21:24, ルカ 5:24。
- B. 神の権威は、実は神ご自身です。権威は、神ご自身の存在から出て来ます——啓 22:1。
- C. すべての権威は、霊的なものであれ、地位上のものであれ、行政上のものであれ、神から出て来ます——Ⅱコリント 10:8, 13:10, ヨハネ 19:10-11, 創 9:6。
- D. わたしたちは神の権威に触れるとき、神ご自身に触れます——イザヤ 6:1-5：
  - 1. 神の権威に出会うことは、神に出会うことと同じです——アモス 4:12。
  - 2. 神の権威に対して罪を得ることは、神ご自身に対して罪を得ることと同じです。
- E. わたしたちと神との関係において、権威に触れること以上に重要なことはありません——使徒 9:5, マタイ 11:25。
- F. 権威を認識することは、内側の啓示であって、外側の教えではありません——使徒 22:6-16。
- G. 神だけが、人に対する直接的な権威です。他のすべての権威は、間接的な権威、すなわち、神によって立てられた代理権威です——ダニエル 4:32, 34-37：
  - 1. わたしたちは神の権威に出会うときはじめて、神が立てた代理権威に服従することができます——マタイ 28:18, ヘブル 13:17, I ペテロ 5:5。
  - 2. 神は、わたしたちが神だけに服従することを求めているのではなく、すべての代理権威にも服従することを求めています——ローマ 13:1-7, Ⅱコリント 10:8, 13:10, ヘブル 13:17。
  - 3. 神の間接的な権威に服従しない者たちは、神の直接的な権威に服従することができません。
  - 4. 神は、わたしたちが間接的な権威に、すなわち代理権威に服従することを求めます。それは、わたしたちが霊的な供給を受けるためです。
- H. わたしたちすべては、権威に出会い、神によって制限され、彼の代理権威の導きを受けなければなりません——イザヤ 37:16, ピリピ 2:12, ヘブル 13:17。

III. 宇宙には二つの大きな原則があります。それは、神の権威とサタンの反逆です。神とサタンとの間の唯一の争いは、権威と関係があります——使徒 26:18, コロサイ 1:13：

- A. 反逆は、神の権威を否定することであり、また神の支配を拒絶することです：
  - 1. サタンは、もともとは神によって創造された天使長でした。しかし、彼の高ぶり

のゆえに、彼は自分自身を高く上げ、神の主権を侵し、神に反逆し、神の内敵となり、自分自身の王国を設立しました——イザヤ 14:12-14. エゼキエル 28:2-19. マタイ 12:26。

2. 人は罪を犯したとき、神に反逆し、神の権威を否定し、神の支配を拒絶しました。バベルで、人は集団で神に反逆し、地上から神の権威を廃棄しました——創 3:1-6. 11:1-9。

B. サタンは神の権威に反逆し、また人は神に反逆することによって神の権威を侵しましたが、神はこの反逆を継続させません。神は地上にご自身の王国を設立します——啓 11:15。

C. 宇宙における争いの中心は、だれが権威を持っているかということと関係があります——4:2-3：

1. わたしたちはサタンと戦って、権威が神と共にあることを肯定しなければなりません——使徒 17:24, 30。

2. わたしたちは、神の権威に服従し、神の権威を維持するよう、決意する必要があります——マタイ 11:25。

D. 反逆の罪は、他のどのような罪よりも重大です——サムエル上 15:23。

#### IV. 権威（代理権威）をもって神を代行する人は、以下の資格を持たなければなりません：

A. 権威に服従しなければなりません——マタイ 8:8-9。

B. 自分自身の中では何の権威も持っていないことを認識しなければなりません——28:18. II コリント 10:8. 13:10。

C. 神のみこころを知っていなければなりません——エペソ 1:9. 5:17。

D. 自己を否む者でなければなりません——マタイ 16:24。

E. 主と一になり、主との継続的で親密な交わりの中で生きていなければなりません——I コリント 6:17. 1:9. I ヨハネ 1:3。

F. 主観的であってはならず、自分自身の感覚にしたがって行動してはなりません——II コリント 3:5。

G. 他の人たちを取り扱うことにおいて親切で、恵み深くなければなりません——ルカ 6:35. 参照、ローマ 5:15-16. I コリント 2:12。

H. 復活の中の人となって、キリストの復活の命の中で生きていなければなりません——II コリント 1:9. 4:14。

I. 神の御前で低い地位を取らなければなりません——民 14:5. 16:3-4, 22, 45. マタイ 11:29. ローマ 12:16. ルカ 14:7-11. I ペテロ 5:5-6。

J. 反対に耐えることができる人でなければなりません——出 16:7. 民 14:2, 5, 9, 27. マタイ 6:14-15. I コリント 4:6-13。

K. 自分は無能でふさわしくないという感覚を持っていなければなりません——出 3:11. 4:6-7, 10. II コリント 3:5. I コリント 15:10。

L. 適切に神を代行する者でなければなりません——民 20:2-13. II コリント 5:18, 20. エペソ 6:20。

#### V. 最も重要な祈り、また最も霊的な祈りは、権威の祈りです——マタイ 18:18. マルコ 11:20-24：

- A. 権威の祈りは、権威に基づいた命令です——イザヤ 45:11. マルコ 11:20-24 :
1. 権威の祈りは、命じる祈りです——イザヤ 45:11。
  2. 神の御前で重みと価値のある祈りを持ちたいなら、わたしたちは神の御前で権威のある命令を発することができる必要があります——マルコ 11:23。
- B. 権威の祈りには二つの面があります。すなわち、縛ることと解くことです——マタイ 18:18 :
1. 普通の祈りは、縛ることと解くことを神に求める祈りです。
  2. 権威を伴った祈りは、わたしたちが権威を行使することによって、縛りまた解く祈りです。
- C. 権威をもって祈るとは、マルコ第 11 章 20 節から 24 節の祈りをするということです。それは、神に向けられているのではなく、「この山」に向けられている祈りです——23 節 :
1. 権威を伴った祈りは、何かを行なってくれるようにと神に求めるものではありません。そうではなく、神の権威を行使し、この権威を適用して、取り除かれるべき問題また事柄を対処します——23 節。
  2. 権威を伴った祈りは、直接、神に求めることではありません。そうではなく、神の権威を直接、適用することによって問題を対処することです——出 14:15-27。
  3. 勝利者の最も重要な働きは、御座の権威を地にもたらすことです。勝利者になりたいなら、わたしたちは権威をもって祈ることを学び、山に向かって語らなければなりません——啓 11:15. 12:10。
- D. 召会は権威をもって祈るとき、ハデス [陰府] を支配します——マタイ 16:18 :
1. 召会には権威があり、あらゆるサタンの事柄を支配します。
  2. 召会は、祈りによって邪悪な霊どものすべての活動を征服すべきであり、また祈りを通して支配権を行使すべきです——ルカ 10:17-19. マタイ 18:18。
- E. わたしたちが権威の祈りをしようとするなら、まずわたしたち自身が神の権威に服従しなければなりません。わたしたちが神の地位に関して神の権威に服従しない限り、また日常生活の中で、すべての実際的な事柄の中で、神の権威に服従しない限り、わたしたちは権威をもって祈ることはできません——イザヤ 45:11. I ペテロ 5:6. 啓 22:1。
- F. 権威の祈りは、天をその出発点とし、地をその到着点としています——雅 4:8. 6:10. エペソ 1:22-23. 2:6. 6:18 :
1. 権威を伴った祈りは、天から地へと祈られます。すなわち、それは天上の地位から始まり、天から地へと下に向かいます——2:6。
  2. 下に向かって祈るとは、キリストが天上でわたしたちに与えてくださった地位に立つこと、権威をもってサタンに命じ、彼のすべての働きを拒絶すること、神のすべての命令は成し遂げられるべきであることを、権威をもって宣言することです——マタイ 6:9-10。
- G. 祈りの地位は昇天の地位であり、祈りの権威も昇天の権威です。昇天におけるすべての祈りは、権威の祈りです——エペソ 2:6. 1:22-23 :
1. 権威の祈りとは、昇天の地位に立つことによって命令を発することのできる人に

よる祈りです——イザヤ 45:11。

2. わたしたちが昇天の地位にいるなら、わたしたちの祈りは神の行政に等しいのです。それは彼の命令を執行することです——啓 8:3-5。

H. わたしたちが天の地位と天の権威を持ち、こうして権威のある祈りを発することができるという程度にまでなるとき、わたしたちは御座におり、主と共に王として支配します——エペソ 2:5-6. 啓 3:21. 参照、エゼキエル 1:26 :

1. この時点で、わたしたちの祈りは、権威のある祈りであるだけでなく、王として支配する祈りでもあり、わたしたちの祈りは神の行政、すなわち神の支配の執行となります——ローマ 5:17, 21. マタイ 18:18. 啓 8:3-5。

2. わたしたちが進んで学ぶなら、わたしたちは神の永遠の定められた御旨の成就のために、そのような祈りを発することができるというところに到達するでしょう——エペソ 1:10-11. 3:9-11。

©2025 *Living Stream Ministry*